

北大路中だより

大津市立北大路中学校 学校通信 第4号 令和6年7月1日発行
生徒数 314名(1年 86名 2年 115名 3年113名) 校長 菊谷 愛

校訓 自主力行

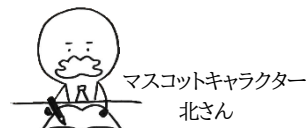
〈学校教育目標〉
豊かな知性と情操を備え、心身ともに健康で「自主力行」に励む生徒の育成

地域の温かい眼差しに支えられて、安全に登下校できています

6月にクマの目撃情報を受けて、富士見学区「子どもの安全を守る協議会」が緊急で開かれました。このことにつきましては、保護者の皆様すでに tetoru 配信にてお知らせしているところです。情報を受けた直後、教職員も特に下校時のパトロールを集中して行いました。

「子どもの安全を守る協議会」においては、生徒の安全・安心を第一に考え、早朝や下校時にいつも以上に警戒のための巡回を強化していただいたり、クマ鈴の配布や注意看板の設置など迅速にご対応いただいております。このように地域の皆様に支えていただいているおかげで、安全に登下校することができているということを身にしみて感じております。登下校の際に地域の方に挨拶を交わす時には、「ありがとうございます」の感謝の言葉も伝えてください。

とりあえず、やってみようとする事の大切さ



さて、期末テストが終わり、1学期も残すところ20日をきりました。授業、生徒会活動、校外学習、部活動等の体験を通して、自分の良さを発揮し充実した学校生活を送れたという実感はありますか？実感が無いという人の中には、「勉強がわからないからやらなかった」とか、「うまくできないし失敗したくないからやらない」というように、物事をやる前からあきらめてしまうような姿はなかったでしょうか。

下にあるのはパナソニック(旧社名:松下電器産業)を一代で築き上げた経営者の松下幸之助氏の言葉です。

とにかく、考えてみることである。工夫してみることである。

そして、やってみることである。失敗すればやり直せばいい。

松下幸之助 (松下電器産業創業者 日本の実業家 発明家 著述家)

「やってみる事」の良いところは、失敗してもすぐにそれを次に生かすことができるということにあります。考え過ぎて、行動せずに、反省もしないのと比べると、一歩でも前に進んでいるということです。テストで分からない問題に直面しても「とりあえず問題を読んでみよう」としたり、体育の跳び箱がうまくできないけれど「もう1回やってみよう」としたりするなど、どんなことにも諦めずやってみようとする事が充実した学校生活につながるものと考えます。残りの1学期を充実させてください。

女子制服のスラックス導入についてのお知らせ

女子の制服に関しまして、「多様性の尊重」、「動きやすさ」、「防寒対策」などの観点から、今年度より、スラックスを追加導入することを決定いたしました。つきましては、仕様や価格、取扱販売店について、保護者様あてにご案内をさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

スラックスの見本(実物)は、職員室前に展示しています。購入を希望する場合は、取扱販売店へ直接ご相談ください。

なお、制服の改定については、昨年度の学校生活アンケートや5月に実施した全校制服アンケートでのご意見を踏まえ、PTA・地域代表、教職員で組織する制服検討委員会において現在協議を行い、令和7年度入学生より制服改定に向けて動き出す方向性が定まりました。このことについては、生徒の意見や思いを聞くことを大切にしていきたいと考えております。今後、進捗状況についても、随時お知らせしてまいります。